

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2022 年 9 月 9 日 (金) 1 限 実施

第 2 回 考 査

千葉県立長生高等学校 第 3 学年 A～G 組

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文を読み、下の問い(問1~問5)に答えよ。(配点 22)

ギリシャ北方の [1] は、フィリッポス2世の時代に国力を強め、ペロポネソス戦争後の疲弊したギリシャ世界を、実質的に支配下におさめた。続くアレクサンドロス大王は、全ギリシャ軍を率いて東征、ペルシャを滅ぼし大帝国を築く。この王国は、王の死によって分裂するが、ローマの独立にいたるまでの300年間、オリエントとギリシャの人的・文化的交流が促され、新しい世界観が形成されていく。

[2] とは、ギリシャ風の思想文化の意味で、各地にギリシャを模したポリスがつくられ、また、エジプトのアレクサンドリアでは、アリストテレスの [3] を手本にした大博物館がつくられ、学芸の中心となった。[1] やギリシャの多くの人々は、東方へ移住し、そのために各植民市は、世界都市の観を呈した。このようにしてつくられたポリス的都市ではあったが、その内容は国際性に富み、世界市民の思想を拡大する大きな力となった。この時代を代表する思想が、エピクロス派とストア派である。

(a)エピクロスは、快を善とし、苦を悪とする快樂主義を提唱したが、彼の言う快樂は精神的快樂であり、そのために身体の健康と魂の平安に気を配り、「[4]」ことを求めた。今日、快樂に生きる人々のことをエピキュリアンと呼ぶのは、彼の名前に由来している。

一方、(b)ストア派は [5] に動かされない状態を理想とするが、それは [5] を制御する理性を支配する自然の在り方を重視する考え方によるもので、世界市民主義として受けつがれていく。このように、理性と自然を結び付ける考え方は、道徳法則と自然法則を合体させ、特定の国法を超越した人間の生き方につながることになる。ストア派の思想家としては [6] (ローマ皇帝ネロの師であったが、後にネロに自殺を強制された。著作に『幸福論』)、マルクス・アウレリウス帝(哲人皇帝と呼ばれる。著作に『[7]』)。なお、『後漢書』西域伝に書かれた大秦王安敦であると考えられている)などが知られる。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [7] に入る最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [1]

①	マケドニア	②	トロイア
③	リディア	④	フリギア
- [2]

①	コスモポリタニズム	②	ヘレニズム
③	ヘブライズム	④	ストイシズム
- [3]

①	メソテース	②	アカデメイア
③	オルガノン	④	リュケイオン
- [4]

①	よく生きる	②	隠れて生きる
③	自然に従って生きる	④	人のために生きる

- [5] [① アパテイア ② ログス
 ③ アタラクシア ④ パトス

- [6] [① セネカ ② プルタルコス
 ③ エピクテトス ④ キケロ

- [7] [① 自然学 ② 自省録
 ③ 政治学 ④ 告白

問2 下線部(a)に関して、次の資料1 資料2 はエピクロスの残した教説の一部である。文中の空欄 **A** **B** に入る語として適当なもの組み合わせを、下の①～④のうちから一つ選べ。[8]

資料1

A はわれわれにとって何ものでもない。なぜなら分解したものは感覚を持たない、しかるに、感覚を持たないものはわれわれにとって何ものでもないからである。

資料2

いずれの快も、それ自身としては悪いものではない。だが、或る種の快をひき起こすものは、帰って、その快の何倍もの **B** をわれわれにもたらす。

- ① A 死 B 不幸 ② A 苦痛 B 不幸
③ A 死 B 煩^{わずら}わしさ ④ A 苦痛 B 煩わしさ

問3 下線部(b)に関して、次のア～ウは、ストア派についての説明である。その正誤の組み合わせとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。[9]

ア ゼノンは幸福とは自然本性にしたがうことであると述べた。

イ エピクテトスは努力によって運命に逆らって人生を変える必要を説いた。

ウ マルクス・アウレリウスは、人間は宇宙という全体の部分であると考えた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤
② ア 正 イ 誤 ウ 正
③ ア 正 イ 誤 ウ 誤
④ ア 誤 イ 正 ウ 正
⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤
⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問4 ストア派のアパテイアの説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

[10] 【2013年センター本試】

- ① 自然に従って生きることで、魂が完全に理性的で調和したものとなり、欲望や快樂などの情念によって動かされない状態。
- ② 情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで、魂の三部分間の葛藤や分裂が克服され、心が全体として理性によって制御された状態。
- ③ 過剰な情念に満たされることと、情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる、有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。
- ④ 苦しみや悲しみなどが取り除かれて、心のうちに快樂が得られることによって、魂が浄化された平静な状態。

問5 エピクロス¹の倫理思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [11] 【2004年センター本試】

- ① 美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから、快樂や苦痛は、美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく、美や醜の本質をなす。
- ② いかなる快樂をも貪^{むさぼ}る人は放埒^{ほうらつ}だし、あらゆる快樂を遠ざける人は逆に無感覚な人になる。私たちは、双方の中庸である節制を目指すべきである。
- ③ 快樂や苦痛は、その強さ、持続性、確實性、遠近性などと、それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって、その総計を計算することができる。
- ④ 私たちが人生の目的とすべき快樂は、放蕩^{ほうとう}者の快樂でも性的な享樂でもなく、身体に苦痛のないことと、魂に動揺のないことにほかならない。

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～問3)に答えよ。(配点 12)

新プラトン主義は、3世紀半ばから6世紀にかけて、[12]を始祖として展開したプラトン主義の一種。一般に以下にあげるような形而上学的主張を共有する。

- 1) 二世界説を発展させた、存在の階層的構造。最下位に位置するのが[13]的世界であり、時間空間的に規定されて感覚の対象となる。
- 2) 各階層は、より上位の原理から無時間的に流出する。太陽が光線を発し、泉が水を湧き出すように、A という主張は、プラトン以来のギリシャ的存在理解の集約的表現である。
- 3) 派生した存在は、自らの根源である上位の存在へと「振り返る」ことによって自己の実在性を保つ(テオーリア)。この発出と還帰の往還構造が、同時に宗教哲学と倫理学の基盤をなす。哲学の目標は自己の根拠への還帰に他ならない。
- 4) 下位の存在は上位の存在の表出・影であり、両者は〈原型— [14]〉の関係で理解される。
- 5) 実在の階層はまた統一性の階層でもあり、下位の存在ほど多様・分裂・限定の度合いを強める。
- 6) あらゆる存在が派生する最高位の究極的原理は、一切の限定を受けず、したがって存在を超えている。それは本来の名称を持たず、ただその完全な単純性を示す意味で「[15]」と呼ばれ、あらゆる完全性の源泉を表す意味で「善」とも呼ばれる。
- 7) この思考的原理は、通常の知識の対象になりえない。そのためそれが知られるためには、ただ精神を浄化し高揚させて一切の言葉の介入なしに直接的な合一を体験する他はない。これは(a) 神秘主義的発想の原型となった。

問1 文章中の空欄[12]～[15]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[12] ① ピュロン ② ポルフェリオス ③ プロティノス ④ キケロ

[13] ① 物質 ② 霊 ③ 精神 ④ アイデア

[14] ① 実体 ② 本質 ③ 似像 ④ 内在

[15] ① 知性 ② 一者 ③ 形相 ④ 魂

問2 空欄

A

 に入る、最も適当な文を、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 存在は神的で不滅なアペイロンから、まず性質の対立するものが分かれ、そして、争い合うこの対立するものから星辰や生物が生じるが、やがて死滅しアペイロンへ戻る
- ② 不生不滅の四つの元素が、「愛」と「憎」によって結合したり分離したりして、世界のいろいろな状態が現出する
- ③ われわれの魂はわれわれを統率して、氣息（ pneuma ）すなわち空気が世界全体を取り巻いて支配している
- ④ 存在は自己の完全性に従って自らの力を減ずることなく自己の外部に自己と類似したものを生み出す

問3 下線部(a)に関して、神秘主義の事例として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① 宇宙の根源にある根本原理としてのブラフマンと自己の本質としてのアートマンが一体であるという真理を悟ることによって、解脱できるとされた。
- ② キリスト信者が一切の偶像礼拝を拒んだことは、社会の安定と秩序を脅かす犯罪とみなされ、信者の礼拝集会は人肉を食する秘密結社とうわさされた。
- ③ 人が純粹に神を念じ、自己を脱却していくなれば、ついには神がつねに心に現前するようになる。これが「魂（の根底）における神（の子）の誕生」であり、神と自己との合一にほかならない。
- ④ 父母から生じた身体で、すなわちそのまま大悟の位に上りうるとして、手に印を結び口に真言を称し意を三昧の境地に統一する三密瑜伽をすすめ、仏の法身を自内証して大日如来と一体化し、成仏すると説く。

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問4）に答えよ。（配点 14）

ユダヤの歴史は、約4,000年前（紀元前17世紀）に族長アブラハムとその息子イサク、孫の〔18〕によって始まりました。メソポタミアで発掘された紀元前2000～1500年頃の文献は、当時彼らが聖書に描かれたとおりの遊牧生活を送っていたことを裏付けています。

「〔19〕」には、アブラハムがカルデアのウルから〔20〕へと導かれ、唯一神を信じる民の祖となったことが描かれています。その後、カナン全土に飢饉が広がったときに、〔18〕（イスラエル）と12人の息子はその家族とともにエジプトに移住しましたが、その子孫は奴隷にされたり強制労働を強いられたりするなどの憂き目にあいました。

400年の隷属の後に、イスラエルの民はモーセによって解放されました（紀元前12～13世紀頃）。聖書によると、(a) モーセはその民をエジプトから脱出させ、先祖に約束されていたイスラエルの地に連れ戻すために神によって選ばれた人でした。モーセらはシナイ砂漠を40年にわたって流浪し、その間に(b)「十戒」を含む(c)「モーセ五書」を授かり、一神教の教えを形成していきました。出エジプト（紀元前1300年）は、ユダヤの民の記憶に深く刻まれ、束縛からの解放と自由を表す象徴となりました。毎年ユダヤ人は当時の出来事を記念して、ペサハ（過越祭）、シャブオット（七週祭）、スコット（仮庵祭）を行っています。

〔21〕王（紀元前1004年～965年）は、ペリシテ人を打ち破るなどの軍事遠征を成功させ、また近隣の王国と友好同盟を結ぶことによって、地域の列強王国を築きました。その結果、〔21〕の権力はエジプト国境から紅海、さらにはユーフラテス川の岸边にまで拡がりました。国内では古代イスラエルの12の部族を1つの王国に統一してエルサレムに遷都し、王政を国の基盤としました。聖書では〔21〕は詩人や音楽家として描かれており、その作品とされる詩が「詩篇」に載っています。

問1 文章中の空欄〔18〕～〔21〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[18] ① ヨセフ ② エサウ ③ ヤコブ ④ ベニヤミン

[19] ① レビ記 ② 出エジプト記 ③ 創世記 ④ 民数記

[20] ① モリヤ ② カナン ③ シオン ④ エリコ

[21] ① ソロモン ② サウル ③ ダビデ ④ ファラオ

問2 下線部(a)に関して、下のア～ウは、旧約聖書に描かれるモーセについての説明である。その正誤の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[22]

ア ファラオがヘブライ人の男児を殺すよう命令する中、パピルスのかごに乗せてナイル川に流されたモーセは、たまたま水浴びしていたファラオの王女に拾われ、養子として育てられた。

- イ モーセはミディアンでは祭司の娘と結婚し、羊飼いと暮らしていたが、ある日「燃える柴」のなかから神に語り掛けられ、イスラエルの民を約束の地へと導く使命を受ける。
- ウ ファラオがヘブライ人を解放しないために災いがエジプトにくんだり、ファラオの息子を含めてすべてのエジプトの初子が無差別に殺害された。最後にモーセが手にもっていた杖を振り上げると、ナイル川の水が割れたため、ファラオはここにいたってヘブライ人たちがエジプトから出ることを認めた。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ② | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ④ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |

問3 下線部(b)に関して、安息日についての規定は十戒の何番目にあたるか。次の旧約聖書に描かれる十戒の記述を参考に、最も適当なものを。下の①～④のうちから一つ選べ。[23]

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかない。安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。隣人に関して偽証してはならない。隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

- ① 3番目 ② 4番目 ③ 5番目 ④ 6番目

問4 下線部(c)に関して、モーセ五書の別名として最も適当なものを。下の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 預言者 ② 律法 ③ 聖書 ④ 諸書

第4問 次の会話を読み、下の問い（問1～問3）に答えよ。（配点 12）

【資料1】



【資料2】

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって が入り込んだように、 はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、 は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。

しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が めことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。（中略）一人の罪によって、その一人を通して が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。

生徒A 【資料1】はシステイーナ礼拝堂の天井画だね。イタリア・ルネサンスの巨匠[25] が描いた失樂園がテーマの絵だ。

生徒B アダムとエヴァの罪と罰だね。せっかく神の[26]として創造されて、食べ物心配も、労働の苦しみもなかったのに、[27]を追放されるなんてもったいない。

生徒A 二人を剣で追いつけているのが智天使ケルビムかな。蛇が擬人化されているのも面白い表現だね。【資料2】は新約聖書の中の文章だけど、[28]の手紙だね。

生徒B イエスの贖罪を信じることによって命を得るという考えは、たしかに[28]の思想だね。ところで、文中のには何が入るのかな？

問1 文章中の空欄 [25] ~ [28] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [25] ① ボッティチェリ ② レオナルド・ダ・ヴィンチ
③ ラファエロ ④ ミケランジェロ

- [26] ① 土塊 ② 似姿 ③ 子 ④ 恩寵

- [27] ① エデン ② カナン ③ シナイ ④ シオン

- [28] ① ヨハネ ② ペテロ ③ ルカ ④ パウロ

問2 資料2の空欄 と同じ言葉が入った聖書の文として**適当でないもの**を、次の①~④のうちから一つ選べ。[29]

- ① を永久に滅ぼしてくださる。主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい／御自分の民の恥を／地上からぬぐい去ってくださる。これは主が語られたことである。(イザヤ書 25 章 8 節)
- ② そして見ていると、見よ、青白い馬が現れ、乗っている者の名は「」といい、これに陰府が従っていた。彼らには、地上の四分の一を支配し、剣と飢饉とをもって、更に地上の野獣で人を滅ぼす権威が与えられた。(ヨハネの黙示録 6 章 8 節)
- ③ 兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。そして、ゴルゴタという所、すなわち「の場所」に着くと、苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。(マタイによる福音書 27 章 32-34 節)
- ④ はっきり言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、 から命へと移っている。(ヨハネによる福音書 5 章 24 節)

問3 ユダヤ教の特徴として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[30]
【2006年センター追試】

- ① 律法と預言者の言葉を通じて、超越的神が歴史において自民族に関わり続けていることを確信し、メシアによる救済を待望する。
- ② 全知・全能で唯一絶対である神の子の意志や命令に服従することを教えの中心とし、民族や国家を超えた信仰共同体を形成する。
- ③ 狭い意味での宗教というよりも、ユダヤ共同体の生活様式全般であり、父・子・聖霊の一体性を奥義として、人格神を礼拝する。
- ④ 律法よりも、人間社会の矛盾に対して神から与えられた預言者の言葉を遵守する生活の方が、救済のためには不可欠であるとする。

第5問 次の文章を読み下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 18）

六か月目に、天使 [31] は、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家の [32] という人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「**A**」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。（ルカによる福音書1章より）

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川で [33] から洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。（マルコによる福音書1章）

そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。[34] は罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。ユダヤ人の祭司長たちが [34] に、『ユダヤ人の王』と書かず、『**B**』と書いてください」と言った。しかし、[34] は、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。（ヨハネによる福音書19章）

問1 文章中の空欄 [31] ～ [34] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [31] ① ヨハネ ② ヨセフ ③ ピラト ④ ガブリエル
[32] ① ヨハネ ② ヨセフ ③ ピラト ④ ガブリエル
[33] ① ヨハネ ② ヨセフ ③ ピラト ④ ガブリエル
[34] ① ヨハネ ② ヨセフ ③ ピラト ④ ガブリエル

問2 文中の **A** に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[35]

- ① この男は「ユダヤ人の王」と自称した
② 父なる神の右に座す人の子
③ 神を語りながら律法に背いた者
④ 人々を惑わす流神者

問3 文中の **B** に入る文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[36]

- ① 起きて、幼子とその母を連れて、エジプトへ逃げ、私が告げるまで、そこにいなさい。
② おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。
③ 恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。
④ 恐れずマリアを妻に迎えなさい。マリアに宿った子は聖霊の働きによるのである。

問4 罪についてのイエスの考え方の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[37] (2012年センター本試験)

- ① イエスは、神の意志に反する行為を実際に行ってしまう人間の傾向を罪とみなし、その罪からの救済が誰に起こるかは、人間を超えた神の意志によって予定されていると主張した。
- ② イエスは、たとえそれを実行せずとも、人間が心のなかで悪しき思いを抱くことそれ自体を罪とみなし、自らが罪人であることを自覚し、その罪を赦す神の愛を信じるよう説いた。
- ③ イエスは、原初の人間が自由意志を悪用して神に背いたことに由来する人間のあり方を罪と考え、自由意志を正しく用いて自己自身を高めることで、その罪から脱却できると説いた。
- ④ イエスは、人間が神なしでも自力で生きていけると考えている傲慢を根源的な罪であると考え、その罪は、律法を厳格に遵守することのみ、神から義とされて赦されると主張した。

問5 イエスが安息日に病人を癒そうとしたことの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38] (2019年センター本試験)

- ① イエスは、安息日に関する律法からあえて逸脱することで、律法が人々の間で形式的にしか守られていないことを批判し、神に対して忠実であることの本来の意味を明らかにしようとした。
- ② イエスは、安息日に関する律法からあえて逸脱することで、律法が神の意志そのものとは関係のないものであることを明らかにし、あらゆる律法が不要な状態を理想とした。
- ③ イエスは、安息日に関する律法を厳格に守り通すことによって、律法に則(のつと)った正しい信仰のあり方を、自らの行いという実例を通して周囲の人々に示そうとした。
- ④ イエスは、安息日に関する律法を厳格に守り通すことによって、人々が重視していた律法と、人にしてもらいたいと思うことを人にもすべきだとする黄金律とが一致することを示そうとした。

問6 イエスの説く神の国の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[39] 【2011年センター本試験】

- ① ローマ帝国による政治的支配を打破し、神から遣わされた救い主によって立てられる国
- ② 神に選ばれた民であるユダヤ人およびキリスト教への改宗者たちが、入ることを約束された国
- ③ 自らの罪を悔い改めて、互いに愛し合う人々の間に、精神的な出来事として実現する国
- ④ 生前、神から与えられた戒めを守った者が、死後、平安の地として入ることを約束された国

第6問 次の文章を読み下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 22）

パウロは小アジアのタルスス生まれのユダヤ人。ユダヤ教の伝統の強い環境に育ち、
[40] 派の熱心な一員となった。ユダヤ人でありながら律法を軽視するキリスト教徒を許しておけず、迫害に乗り出したが、その過程で突然、人が救われるのは、[41] によるのではなく、キリストを信じて彼にいっさいをゆだねることによると悟って、キリスト教の伝道者となった。初めは主としてシリアのアンティオキアの教会を中心に活動。しかし彼の唱える律法からの自由の主張が全幅の賛成を得られなかったことから、独立して、主としてエーゲ海沿岸各地を巡回伝道し、[42] を主体とする教会を建てた。晩年、これらの教会からエルサレム教会にあてた献金を届けるためエルサレムに上京したところを、彼に対し批判的なユダヤ人に捕らえられ、ローマ総督に預けられた。ローマ市民権を行使して皇帝に上訴したためローマに送られ、まもなくネロ皇帝の下で殉教したと思われる。『新約聖書』には彼の手紙が収録されている。ただし、その一部は彼自身のものではない。[43] が書いた「使徒行伝」の後半は主として彼の活動を伝えるが、かならずしも史的に厳密ではない。彼の死後、その徹底した律法からの自由の福音は、しばらくの間正当に理解されなかったが、その後アウグスティヌス、ルター、近年ではK・バルトなどに大きな影響を与えた。

古代キリスト教会において、教会の正統教説を著述によって宣明し、聖なる生活によって信徒の模範となった人々は、教父（パトレス patres）の名で尊重された。キリスト教は初め、キリストの教えの唯一性によって、古代異教文明とはまったく異質の源泉に基づく宗教として登場したが、しだいに古代異教世界の内部で教勢を伸展するにしたがい、(a) 古代文明との対決を余儀なくされた。この要求を満たした者が教父であって、教父によって、古代文明のうちの不滅な価値を有するものはキリストの教えを準備し、人々を真理そのものであるキリストへ導くものとして、キリスト教思想のうちに摂取された。他方にキリスト教の教説そのものは、究極においては (b) 理性による解明を許さぬ神秘を含むとしても、なお、それが理性の把握を許す範囲では教説それ自身もなんらかの理性的な構造を備えるようになった。ここにキリスト教思想は、一つの総合的な世界観として形成され、この基礎のうえに中世のキリスト教神学の体系が、構築された。

ラテン教父として名高いのは ①テルトゥリアヌス、また ②ヒエロニムス、③キプリアヌス、④アンブロシウス、アウグスティヌスである。アウグスティヌスは異教徒を父とし、キリスト教徒を母として生まれた。当時のローマ社会における弁論家としての異教的な教養から、幼時に母から受けたキリスト教の信仰に帰るまでの回心の過程を記した『[44]』は、異教文明からキリスト教文明に移りゆく時代の苦悩と歓喜を、一身の内面の歴史として刻み取ったものとして、精神史上の貴重な記録となっている。[45] 主義の思想にも助けられて、彼がここに描き出した、人を内面から支え、照らし導くものとしての「内面の神」の思想は、その後の西欧のキリスト教思想を形成するもっとも力強い力の一つとなった。

問1 文章中の空欄 [40] ～ [45] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①～④のうちから一つずつ選べ。

[40] ① サドカイ ② ゼーロータイ ③ パリサイ ④ エッセネ

[41] ① 礼拝を行うという善行 ② 律法を守るという神の恩寵
③ 礼拝を行うという恵み ④ 律法を守るという自分の功績

[42] ① ユダヤ人 ② ローマ人 ③ 異邦人 ④ シリア人

[43] ① ヨハネ ② ルカ ③ マルコ ④ マタイ

[44] ① 自省録 ② 三位一体論 ③ 告白 ④ 神の国

[45] ① 新プラトン ② エピクロス ③ アリストテレス ④ ストア

問2 下線部(a)に関して、教父たちが対決したグノーシス主義についての記述として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[46]

- ① グノーシス主義の影響を受けた『ユダの福音書』によれば、イエスを裏切ったイスカリオテのユダが実はイエス・キリストの弟子の中の誰よりも真理を授かっており、「裏切り」自体もイエス・キリスト自身がユダへ指示したものであるとしている。
- ② 極端な霊肉二元論。啓示者よりグノーシス（知識・認識）が与えられることにより人間は覚醒し、魂は悪の支配する地上世界から解放されて神的な光明の国に上昇して神となるとする。
- ③ キリスト教、ゾロアスター教、仏教、道教などを混合するとともに、キリスト教や仏教を名のることによって巧みに勢力を伸ばし、4世紀には西方で盛期を迎えたが、6世紀以後東方に向かい中国に達した。
- ④ 旧約の神と（創造神 [物的]）と新約の神（父なる主 [霊的]）とを別の存在としたり、マルキオン（2世紀）はキリストは肉体的存在ではない（仮現説）などと説き、独自の聖典を編纂した。

問3 下線部(a)に関して、「不合理なるがゆえに我信ず」の言葉で知られる教父として最も**適当な人名**を、リード文中の①～④のうちから一つ選べ。[47]

問4 神と教会についてのアウグスティヌスの考えとして最も**適当なもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[48] 【2017年センター本試験】

- ① 教会が指導する聖書研究を通して信仰を深めることにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
- ② 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、教会は神の国と地上の国を仲介するものだと考えた。
- ③ 教会への寄進といった善行を積むことにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
- ④ 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、贖宥状の購入による救済を説いた教会の姿勢は間違っていると考えた。

問5 信仰と理性の関係についてのトマス・アクィナスの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]【2017年センター追試験】

- ① 信仰も理性も等しい価値をもつが、信仰によって得られる真理と、理性によって得られる真理とは異なると考え、両者を分離する二重真理説を説いた。
- ② 神が啓示した真理は、信仰によって受け入れられるものであり、この真理の理解には理性が必要であるため、信仰と理性は調和すると説いた。
- ③ 救済のために最も重要なのは愛であるが、信仰も理性も等しく愛の働きを支えたと考え、信仰・理性・愛の三つの徳をもって生きると説いた。
- ④ 人間の本性である理性と、万物を貫く理性は同一であるため、自然に従うことによって、その造り主である神への信仰にめざめると説いた。

問6 アウグスティヌスの思想について書かれた次の資料を読んで、下の①～④のうちから正しいものを一つ選べ。[50]

アウグスティヌスは、人間の自由意志についても論じていた。アウグスティヌスの自由意志の解釈を巡っては相反する2つの立場がある。

A アウグスティヌスは予定説に立つ恩寵先行論に基づいて自由意志を否定的あるいは限定的に論じたとする立場。

B 救いにおける個人の自由意志を積極的に認めたとする立場。

クラウス・リーゼンフーバーによれば、アウグスティヌスにおいて、自由とは歴史を形成する能力であるが、原罪を孕んだ結果、人間の自由は悪へと傾斜することとなり、中立的な自由を失った。しかし神の恩寵により自由な「神の国」において、人間は自らの自由を取り戻すことが出来るが、その段階においても意志の弱さは残る。その時人間が神への愛に貫かれて生きるなら、つまり愛への意志によって恩寵により完成されるならば、もはや罪を犯すことのない自由を得ることが出来る。そして個人はこの救いの過程を通して、歴史の進展に寄与するとした。

宮谷宣史はアウグスティヌスの自由意志論にパウロの影響を認めつつ、アウグスティヌスは罪を「無知」あるいは「無力」として捉え、人間には自由意志があっても善悪を判断する知識あるいは能力がないために、救いの根拠は「人間の」自由意志ではなく、「神の」自由な選びと予定である

- ① リーゼンフーバーはAの立場をとり、宮谷はBの立場をとった。
- ② リーゼンフーバーはAの立場をとり、宮谷はAの立場をとった。
- ③ リーゼンフーバーはBの立場をとり、宮谷はAの立場をとった。
- ④ リーゼンフーバーはBの立場をとり、宮谷はBの立場をとった。

問題は以上です。